

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200293		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホームあいの街浜北		
所在地	浜松市浜北区於呂2406-1		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 7 日	評価結果市町村受理日	令和6年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2297200293-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2297200293-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5 年 10 月 26 日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>穏やかに過ごせる施設であること                  自分の思いに応えられるように、一緒に考えます。                  その人らしい生活が、そのひとらしく過ごせる毎日を支援します。                  施設だけでなく、ご家族の一員である事が確認できる施設です。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者は、毎月店長会議にて法人内他事業所管理者との情報共有と意見交換を図っている。個人面談やミーティングにより職員意見を聴き取り、法人研修による職員のスキルアップと働きやすい職場環境作りに努めている。コロナ禍による制限緩和措置を受けてボランティアの受け入れを再開し、地域住民との交流機会を継続している。運営推進会議時には写真入りの資料を配布して事業所での暮らしぶりを報告し、コロナ禍でも家族との関係継続を支援してきたが、制限緩和後は面会を再開し、家族の要望や意向の聴き取りに努めている。電車でのお出掛け、お花見・紅葉狩りのドライブなど、家族の協力を得ながら、利用者個々の状態や希望に合わせた外出を支援している。夫婦での入居にも柔軟に対応し、入居前の暮らし方が続けられるように支援している。常時換気、3時間ごとの消毒と毎朝の清掃により、感染防止・衛生に配慮した安全な環境作りに努めている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営推進会議も対面にて開催出来るようになりました。	事業所はGHを複数経営する法人に属し、月1回店長会議にて法人内他事業所との意見交換・情報共有を図っている。全員参加のミーティングと法人研修(1回/月)にて、理念の確認とともに職員のスキルアップに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	徐々にボランティアさんの訪問、祭り祭典への参加ができるようになりました。	地域とのつきあいは、コロナ禍により制限されてきたが、コロナ緩和措置を受けてボランティアの受け入れを再開し、「しの笛」演奏、「於呂神社」夏祭り見学、近隣の小学2年生「地域研究」の訪問など、徐々に平時の状態に戻す取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	フェスタの開催 AEDの取り扱いの講習を企画しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、お話があった取り組みは、ミーティング等で共有し、実践に活かしています。	運営推進会議は、地域包括センター職員、自治会長・民生委員、家族代表が参加して、2か月に1回開催している。参加者からの意見や要望については、職員ミーティングで情報を共有して、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内・議事録の提出	運営推進委員会議事録の送付や、グループホーム協議会への参加、「フェスタ浜北」の開催など、法人本部と共に、行政との関わり合いを通じて、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議と身体拘束廃止委員会を同時開催し、身体拘束がないように努力しています。	身体拘束廃止委員会は、運営推進会議の閉会後に開催している。身体拘束に係わる知識の理解のため年2回法人研修を実施し、職員は「研修ノート」にレポートを記すことで理解力のアップを図り、身体拘束を行わないケアの実践に努めている。	

静岡県(グループホームあいの街浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本社の内部研修により、研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括・ケアマネ等と連携する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、その前までにご家族にも納得して頂けるように説明し、ご本人様にもご家族様より説明して頂けるようにお願いしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で、施設への来所がなかなか、かなわなかったが、便り・写真等でお知らせした。	コロナ禍では、運営推進会議時に写真入りの資料を配布し、事業所での暮らしぶりを報告してきた。制限緩和に伴い、玄関近くの面談室を利用して家族面会を再開している。管理者は、家族の訪問時には都度声掛けを心掛け、家族の要望や意向の聴き取りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より、会話を多く持つようにしている。	個人面談を年2回行い、人事考課と職員意見の聴き取りを図るとともに、管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを心掛け、必要な情報はミーティングで共有して事業所運営に反映している。毎月法人研修を行い、職員のスキルアップと働きやすい職場環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課等により、やりがいを持てるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加できる研修には、参加できそうな職員への声掛けをする。		

静岡県(グループホームあいの街浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修などでも、他施設との交流を図る		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築く為、傾聴し寄り添います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設を見学して頂き、それまでのお話を聞きます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・ご本人様とお話し頂き、ケアマネも含めご納得頂けるサービスを提供させていただきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の未熟さも成長も、利用者様と一緒に楽しめるように支援します。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設・ご家族・利用者様と一緒にいい関係を築きます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院、病院、馴染みの場所があれば継続できるように、支援します。	コロナ禍でも、運営推進会議資料に写真を添えて暮らしぶりを伝え、病院への通院や家族行事での帰宅など、家族との関係継続を支援してきた。更に、訪問理美容の利用や他の利用者や職員との会話など、事業所での暮らしが馴染みの関係となるよう、配慮した支援を心掛けている。	

静岡県(グループホームあいの街浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が交わるように、席など職員も関わります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があれば、いつでもお話しできる体制でいます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	小さなことでも、その方の思いに添います。	併設事業所利用者の入居も多く、協力して情報収集を図り、利用者や家族の思いや意向をフェイスシートにまとめて、職員と情報共有している。入居後は、ミーティングやカンファレンスにて都度意見交換を図りながら、利用者・家族の意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、それまでの経緯などを聞き、職員と共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定、体重測定。お食事量、お食事形態、顔色等により、体調の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員・ご家族・ご本人の毎日の生活を話し合い、プランに反映させます。	利用者の状態は、タブレットを活用した「支援経過記録」と「連絡ノート」・朝夕の申し送りにより、職員間で情報共有・意見交換を図っている。管理者・ケアマネジャーは、都度状況把握に努めてカンファレンス・モニタリングに繋げ、職員と話し合いながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員一人ひとりの気づきを他職員と共有し話し合います。		

静岡県(グループホームあいの街浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化はどの都度、ご家族に連絡・相談しながら柔軟に対応します。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節の行事、お花見・紅葉狩り等に出掛けながら、ボランティアさんや敬老会・クリスマス会などのお楽しみ会を楽しみます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を行ってくださる医師、馴染みの先生による往診など、いつでも適切な医療を受けられるように支援します。	かかりつけ医による1回/月の定期訪問診療と、法人の常勤看護師が毎日訪問して、利用者の健康を管理している。他科受診・病院への通院は、家族の協力を得ながら、管理者・看護師・職員と情報共有を図り、連携して対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化は、看護師に伝え必要であれば、往診・ご家族による受診をお願いしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に至るまでの経緯を伝え、入院中も経緯を共有し、退院カンファ等の参加をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診の医師との連携により、体調の変化は随時、ご家族に伝え看取りまでの支援をしています。	看取りの指針を整え、入居時に事業所での対応を説明して、利用者・家族の同意を得ている。急変時には医師とともに再度家族の意向を確認し、家族の希望に沿って対応している。管理者・職員は法人看護師による定期的な研修により、適切な支援を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故などの緊急事態への対応を研修などで職員とも手順を確認しています。		

静岡県(グループホームあいの街浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、継続して運営が出来るように、地域・本社等の協力をお互い様の精神でお願ひしています。	災害対策訓練は、併設事業所とともに年2回テーマを決めて実施している。水・食料品等の備蓄品は3日分を目途に、法人本部と協力しながら管理している。	訓練実施により得た課題は、次回訓練へ継続して改善されることが重要であり、継続した訓練計画の実践を期待します。災害時業務継続計画(BCP)策定に向け、令和5年度末までに、地域住民との連携を含めた計画の検討を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様のやりたい事をやりたいように支援します。	個人情報保護や写真掲載について、入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。管理者とケアマネジャーは、定期的に職員研修を行い、課題が散見された場合は、都度注意するとともに、ミーティングで共有し、プライバシーに配慮した接遇や声掛けを促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しかけるタイミングなど、その方のペースを考えます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調等を配慮し、安全に自由に歩けるように考えます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の訪問理美容。 その方らしい服装など対応します。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事が楽しいと思えるように、季節の果物などをおやつに提供しています。	配食サービスを利用しながらご飯・味噌汁を手作りして、利用者の好みに応じた食事を提供している。毎月、行事食(夏そうめん・餃子パーティー)や手作りケーキなど、食事を楽しむ工夫を心掛けている。利用者の残存能力に合わせて、盛り付けや片付けを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お食事の量が減ってしまい、なかなか食べられなくなった方へ、栄養補助食品などを処方してもらったりしています。		

静岡県(グループホームあいの街浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、夜間帯の義歯洗浄。舌磨きの声掛け、実践。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自身にあった排泄パターンを実施。立位が保てる場合は、トイレにて排泄を支援しています。	職員は、「生活管理表」を記録し、利用者個々の排泄パターンを確認することができる。夜間ポータブルトイレ利用者も、日中はトイレ利用を促し、安全に配慮しながら利用者の状態に応じた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご家族・医師と相談し、自然便が排泄できるように支援します。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拘縮があるかたでも、湯舟に入れるように、訪問入浴をお願いしています。(グループ会社からの訪問による)	週2回、午前中を目途に、利用者の希望や状態に配慮しながら入浴を支援している。機械浴がないため、利用者の状態に合わせて訪問入浴を利用している。入浴剤を利用したり、利用者が気持ち良く入浴できるように、工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人一人部屋、ご夫婦の場合はご夫婦で一つの部屋での就寝もある。シーツ交換で清潔・快適な睡眠の提供。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの薬を複数の職員で、確認し間違えないように最大限の注意をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒーが好きな方には、コーヒーの提供。囲碁が好きな方など囲碁の提供。		

静岡県(グループホームあいの街浜北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お墓参りなど、ご家族と一緒に外出できるように、車いすの貸し出し支援など。	事業所周辺の散歩や外気浴ができるよう、工夫しながら支援している。電車でのお出掛け、お花見・紅葉狩りのドライブなど、家族の協力を得ながら、利用者個々の状態や希望に合わせた外出支援を心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、現金の所持はありません。外出支援にて、お買い物などできるように支援します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の同意があれば、お電話をかけた頂いたり、かけたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	製作した壁画、お出かけした時・レクの写真を展示して季節の変化に心掛けています。	共有スペースでは、常時換気、3時間ごとの消毒と毎朝の清掃を行い、感染防止・衛生に配慮した環境作りに努めている。職員は、安全に配慮して整理整頓を行い、季節感のあるくつろげる共有空間作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お隣になる方は、穏やかでいられる方に配慮しています。自由に動けるように心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご夫婦の方は、1つのお部屋で就寝され、もう1つのお部屋は、リビングとして使用されている方もいます。馴染みの家具などをお願いしています。	入居時に馴染みの家具などを持ち込み、利用者好みの空間作りを心掛けている。衣替えなど家族の協力を得ながら、入居前の生活が続けられるよう、個々の暮らしぶりを支援している。夫婦での入居にも柔軟に対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自由に動けるように工夫しています。		